

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ちびこば岸和田		
○保護者評価実施期間	2026年2月10日		～ 2026年3月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数) 13名
○従業者評価実施期間	2026年2月10日		～ 2026年3月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月30日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	季節感を感じるイベント、体験型のイベントなど、楽しめるようにしている。	マンネリ化やパターン化にならないように、児童にイベントのリクエストを聞き、発言のできる機会を設けている。また職業体験のイベントを通じて、社会の暗黙のルール、仕事について学びや体験の機会を設けている。	児童だけではなく、保護者にもイベントのアンケートを実施していくことで、イベント内容の幅が増えるようにしていく。高学年の児童が増えてきており、職業体験の実施の機会、回数を多くできればと考えている。
2	学習支援の現場において、教科書に沿った支援やテスト前、受験勉強に取り組み、個々の特性に応じた学習法で支援をしている。すらすらを取り入れ、学習への興味を引き出すようにしている。	・それぞれの利用者の特性をスタッフ全員が周知認識し、個々の特性に合った学習支援に関わっている。 ・利用者の学習の課題を日々の療育日誌、スタッフ間で共有している。	利用者同士で、先輩が後輩に学習支援を取り入れ、双方に対し相乗効果が出るように仕組んで行く。
3	SNS (Instagram、Facebook) を活用しての情報発信。	日々の活動をアップ、情報を発信し、活動内容や取り組みを知ってもらえるようにしている。	イベント活動の更新がメインになってしまうことがあり、できる限り毎日更新できるようにしていく。また多くの方に対して頂けるような工夫、見て頂ける工夫を考えていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎サービスを積極的に行っているが、下校時間が複数校同時刻、コスト(車両関連、送迎スタッフ、送迎シフト作成)が多く、業務が多忙になっている。	中高生には、自立支援も考慮し、徒歩や自転車交通機関利用など、通所の手段を自力で行える利用者には、提案をしていく。	学校、保護者と引き続き連携を図り、お迎え時間や場所、お送り時間など、できる限り前後の時間や場所などを考慮し、乗り合わせの工夫をしていく。
2	小学生高学年、中学生の利用者が多く、中高生になると利用回数が激減する。	クラブ活動や塾などがあり、中高生になると下校時間が遅くなることから利用回数が大幅に少なくなる。	中高生になっても療育は必要であり、閉所時間の延長や部活が休みになる定期テスト期間などに積極的に通所できるようなプログラムも必要。
3	保護者交流、地域交流の機会が少ない。	児童を第一に考えて日々取り組んでいる中で、児童への支援の取り組み方や今後についての話が中心になってしまうこと、時間や場所的に設けることが難しい。	イベント活動を通じて、保護者交流の機会を設けるイベントの検討していく。